

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 14日

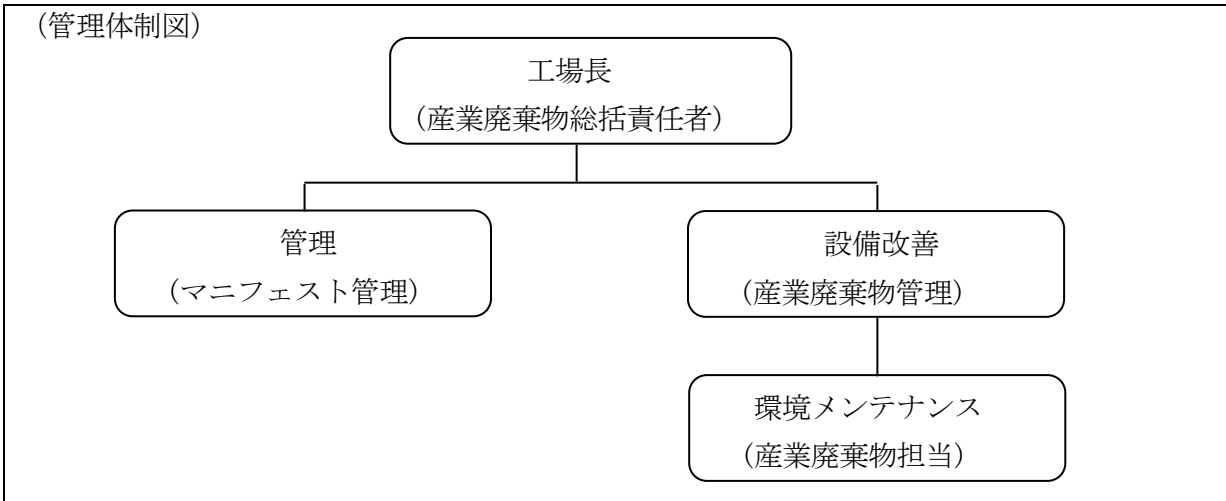
栃木県知事  
福田 富一 様

提出者  
住 所 栃木県真岡市寺内689-2  
氏 名 タカノフーズ栃木株式会社  
代表取締役 高野 成徳  
電話番号 0285-83-8001

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	タカノフーズ栃木株式会社 鬼怒川第二工場
事業場の所在地	栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1丁目3番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	0993 豆腐・油揚げ製造業
② 事業の規模	38.48億円
③ 従業員数	136人
④ 業廃棄物の一連の処理の工程	工場—汚泥—中間処理業者に委託、発酵堆肥化 動植物性残渣—中間処理業者に委託、発酵堆肥化、焼却、飼料化 廃油—中間処理業者に委託、焼却 廃プラスチック類—中間焼却業者に委託、焼却、破碎 紙くず—中間処理業者に委託、破碎、圧縮 木くず—中間処理業者に委託、破碎 金属くず—中間処理業者に委託、破碎、固形化 ガラス・陶磁器くず—中間処理業者に委託、焼却

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	<b>【前年度（令和4年度）実績】</b>								
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	排出量	21480.24 t	1388.16 t	0.57 t	45.78 t	0t	0t	0t	0t
	（これまでに実施した取組） 汚泥：排水処理場の管理、汚泥乾燥機による減容 動植物性残渣：製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制 廃油：分別の推進 廃プラスチック類：製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制 紙くず、木くず、金属くず、ガラス・陶器くず：分別の推進								
② 計画	<b>【目標】</b>								
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	排出量	23000t	1200 t	1 t	60 t	0t	0t	0t	0t
	（今後実施する予定の取組） 汚泥：排水処理場の管理、汚泥乾燥機による減容 動植物性残渣：製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制 廃油：分別の推進 廃プラスチック類：製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制 紙くず、木くず、金属くず、ガラス・陶器くず：分別の推進								

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 部署毎に発生する廃棄物を分別する。
② 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 発生する廃棄物を分別することで、有価物(リサイクル)分別率を向上させる。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	20607.48 t	t
(これまでに実施した取組) 脱水機を使用し、脱水を行う。 汚泥乾燥機で汚泥の減容を行う。			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	22000 t	t
(今後実施する予定の取組) 脱水機を使用し、脱水を行う。 汚泥乾燥機で汚泥の減容を行う。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（                    年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項									
① 現状	【前年度（ 令和4年度 ）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	全処理委託量	872.76 t	1388.16 t	0.57 t	45.78 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	633.66 t	1049.67 t	0.57 t	45.78 t				
	再生利用業者への処理委託量	239.10 t	338.49 t						
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量								
	(これまでに実施した取組) 汚泥                                     : 排水処理場の管理、汚泥乾燥機による減容 動植物性残渣                         : 製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制 廃油                                     : 分別の推進 廃プラスチック類                     : 製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制 紙くず、木くず、金属くず、ガラス・陶磁器くず: 分別の推進								

		【目標】							
		産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性 残渣	廃油	廃プラ スチック 類	紙く ず	木く ず	金属 くず
② 計画	全処理委託量	1000t	1400 t	1 t	60t	0 t	0 t	0 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	600t	800 t	1 t	60t				
	再生利用業者への 処理委託量	400t	600 t						
	認定熱回収業者への 処理委託量								
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量								
		<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>汚泥 : 排水処理場の管理、汚泥乾燥機による減容</p> <p>動植物性残渣 : 製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制</p> <p>廃油 : 分別の推進</p> <p>廃プラスチック類 : 製造工程の歩留まり管理による廃棄抑制</p> <p>紙くず、木くず、金属くず、ガラス・陶器くず : 分別の推進</p>							
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。